備後撚糸

自販比率30%超へ

開発型撚糸企業めざす

撚糸加工業の備後撚糸（広島県福山市）は〝開発型撚糸企業〟を目指し、和紙を使った撚糸「備和（びんわ）」をはじめ、自販の拡大に取り組む。今期（2019年3月期）の売上高に占める自販比率は30%を超える見込みで、光成明浩社長は将来的に「40～50%まで高めたい」と話す。

撚糸加工企業の多くは受託加工を主体にしているが、同社は09年から備和の自販を開始、織物だけでなくニットにも使いやすい糸を備蓄するなど少しずつ販路を広げてきた。

糸の開発だけでなく、生地商社のコヤマインターナショナル（浜松市）とコラボレーションし、リネンと和紙を複合した糸を使った生地を開発するといった新たな連携も加速。「受託のみではなく、将来的にはこちらから提案できる企業を目指したい」と言う。

コヤマインターナショナルとコラボで開発した、リネンと和紙の複合糸使いの生地

愛知県一宮市で開かれる糸の展示会「ジャパン・ヤーン・フェア」（JY）にも17年から出展。同社の撚糸技術をアピールすることで「売り先が広がってきた」（光成社長）。今年のJYにも出展予定で、備和やニット用途で使えるオール天然繊維の糸など、同社の技術を生かした商品を幅広く展示する。

撚糸業を知ってもらうための情報発信にも力を入れる。受託元の企業へ「撚糸業の事情がなかなか伝わらない」（光成社長）ケースが多いことから、『びんねんニュース』と呼ばれる情報誌を17年から月1回発行。撚糸業や同社の考え方を発信している。びんねんニュースは同社のホームページで見られる。